

教育目標:	○健康でたくましく生きる ○みずから学び 創造する ○心豊かに互いを尊重する
めざす学校像:	○学ぶ喜びが実感できる学校 ○ふれあう喜びに満ちた学校 ○夢を育む学校 (校訓) 師弟同行、夢
めざす生徒像:	超スマート社会 Society5.0に向けて、世界の人々の幸福を願い、主体性を持って生きる人
めざす教師像:	授業実践を通して授業力を高め合える教師、適切な指導ができる教師、組織の一員として協力して職務を遂行できる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
確かな学力の伸長	ICTを活用した令和型教育により、学ぶ喜び、学べる喜び、学ぶ意欲を育む授業を工夫し、確かな学力の伸長を図る	●基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ●自己決定の場を提供し自己指導能力を育成する	1人1台のタブレットの活用やICTを活用し、個別最適化された学びを充実することで、「誰もがわかる」「できる」授業を実現する。	1 84.6%	2 86.2%	4 85.5%	4 86.8%	◇ 個別最適化された学びをすすめるための1人1台のタブレットの効果的な活用の研究は今後すすめていく必要がある。 ◇ タブレットを活用して、どれだけ個別の状況にあった学習が提供できるかが課題である。 ◇ どの授業もタブレットが使用できる状態で受けるということを基本とし、改めてPCに関する校内ルールを明確化等すすめていく必要がある。	◇ ICT機器の活用はコロナが収束してもさらに日常的な取組になることが必要です。校内ルール(多分、生徒?)も大事ですが、適切かつ効果的な授業での活用を望みます。 ◇ 今年度は主にICTの活用に重点を置いた改善策を実施した。教員が効果的に活用できるようになるのはもちろんですが、子供にとっての取り組みやすさや学習内容の定着を見ていく必要がある。生成AIも身近になってきている現状で、学校がどこまで、活用しただけ個別の状況に合った学習を提供できるかが、今後の課題となる。 ◇ ジグソー法を取り入れているということで、ICTだけでなく主体的な生徒の育成にも繋がっていると思いました。ICTについては、努力指標にまだ上がる余地があるので、成果指標の数値が更に上がることに期待できます。
			自らの意見を述べる、自己の仮説を検証するなど、自ら考え、選択し、決定、発表する等の場面を設ける。	3 88.4%	4 93.1%	4 82.4%	4 86.9%	◇ 自己決定の場の提供が「自分で考えたり、選んだり活動に主体的に参加」することにつながるため、自己決定の場の提供を今後も工夫していく。 ◇ 学校全体として、主体的に学ばせる授業方法を浸透させていく必要がある。 ◇ 知識伝達型の授業からの脱却することが課題である。	◇ 授業を観察する中では、まだまだ、知識伝達型の授業から脱却できていない教員も見受けられる。一方で学習内容がそのままであれば、進度などの問題もあり、なかなか1単位時間の授業展開をダイナミックに転換できないもどかしさも感じている。 ◇ ポイントが上がるという結果が出て喜ばしいことと思います。「自分で考えたり、選んだり活動に主体的に参加することができている」ことの上昇ということで、生徒は日々の学習に充実感があるのだと思います。取り組まれているジグソー法の視点による授業の実例を、ぜひ見学させて頂きたくったと思っています。 ◇ 成果が素晴らしいので、授業の中で設けている自己決定の場の提供を、引き続き与え続けてほしいです。
豊かな心の育成	人と人とのふれあいを通して、自己肯定感を高め、心豊かに自信をもって生きていく力を育む	●生徒の自己肯定感を高め、不登校やいじめ等の課題の解決につなげる ●共感的な人間関係の育成と安全・安心な風土の醸成	一人一人の良さを見つけ、褒め、認め、励まし、伸ばす指導を推進する。	4 100%	4 96.4%	2 72.9%	2 73.9%	◇ 生徒とのコミュニケーションをとる時間、会話をする時間を確保し、生徒の良い部分を今後も見つけていく必要がある。 ◇ 他の生徒からの評価も自己肯定感を高めるうえで効果があるのでそうした機会をつくることも今後の課題である。	◇ 自分のよいところはわかりにくく、自己評価だけでは難しい(学習評価と同じです)。他者による相互評価や教科等の授業でも様々な意見が出る発問を設定するなどして、今後も充実させていきたい。 ◇ 多感な中学生の「豊かな心の育成」は、なかなか難しい課題である。しかし、コミュニケーションを核として、教員と生徒、生徒と生徒の関係性を高める手だてを実施していることは評価できる。 ◇ 全国学力・学習状況調査の結果では、「自分には、よいところがあると思う」について肯定的な回答が、全国、東京都ともに約80%である一方、二中ではまだまだ全国調査との開きはあり、とのことですが、この理由はなぜなのか。 ◇ 自分の肯定というものは、私がそいつ時代に育ったのか難しいなど感じますが、自信を持てるような責任感が伴う経験をすることや、自分の得意なところが見つかる自分自身を肯定できそうな気がするので、そういう経験ができる場を増やせると良いと思います。
			発表等において、失敗を恐れない、間違いやできないことが突かれ、生徒同士がお互いに関心を抱き合う集団づくりを図る。	4 100%	4 100%	4 85.2%	4 86.1%	◇ 授業をはじめ様々な場面で、共感的な人間関係の育成が今後必要である。 ◇ 安全・安心の風土の醸成のために、これまでの学校居心地感を高めるための取り組みの継続も今後の課題である。	◇ 教員としては、共感的な人間関係の育成と安全・安心な風土の醸成について意識をしているということなので、継続することにより生徒の意識が高まることに期待しています。 ◇ 今後も意図的に生徒会を中心とした、自主的、実践的な活動の中でのコミュニケーション能力の向上を期待している。
夢を育む	将来に対する夢と希望をもちよりよい人生を送ろうとする力を育む	●日頃の生活の中で、夢につながる目標をもち挑戦する姿勢を高める	キャリア教育をはじめ様々な活動を通して、将来設計能力や意思決定能力を高める。	4 96.1%	4 93.1%	3 68.2%	4 70.0%	◇ 職場体験の受け入れ事業所の数を、商工会としても協力して増やしていくこと。 ◇ 職場体験の発表会に事業所の方を招待したり、発表会の様子をDVDにして渡したり、成果物をもって事業所にお礼の挨拶に向うなど、地域との関りを深めるやり方はいろいろあるので工夫することも課題。	◇ 中断していた職場体験が実施できたことに対して、学校の取組を高く評価します。 ◇ コロナ禍で、体験的な活動が制限されてきた経緯があるので、キャリア教育の視点から、多くの人々と関わり、自分自身を見つめ直す機会が増えることを望んでいる。 ◇ 4年ぶりの職業体験の実施は、結果も現れていて本当に良かったことと思います。体験の機会をよりたくさん提供することで、自己肯定感が高まり、上記の全国調査の結果も向上するのではないかと、思います。 ◇ 職場体験がプラスに働いているということで、来年も引き続き学校だけでなく、地域との関わりを経験して貰いたいと思います。ここで経験したことが自信となり、(豊かな心の育成)にも繋がると思います。
特色ある教育活動の推進	特色ある教育活動を推進し、地域から信頼される学校を創造する	●特別支援学級との交流及び共同学習の推進 ●小中連携を活かした国分寺学の創出。	授業、特別活動、行事において交流及び共同学習を工夫し積極的にすすめるとともに、生徒には交流や共同学習の意義を示していく。 これまでの取組を見直すとともに小中連携を通して創出する。	4 100%	4 93.1%	2 72.1%	2 70.5%	◇ 交流の意義について生徒に示していくことが課題。ただ交流が生徒にとっては自然と感じていることが大切なので交流が当たり前と感じられる工夫も必要。 ◇ 特別支援学級からのアプローチも積極的に行っていく必要がある。	◇ 交流および共同は、本当に難しい教育活動だと考える。2つの固定級がある特徴は、生かすつもりで日常的な交流のために工夫を重ねていきたい。 ◇ 特別支援学級のある二中だからこそ推進できる特別支援教育を今後も特色としてほしい。
				1 53.8%	1 44.8%	2 41.0%	2 40.0%	◇ 小学校3年生の「私たちの国分寺」の中で、中学生がプレゼンテーションを行う。それも、グループ分けをうまく考えて、中学生が同じテーマの発表をする機会を複数回設定するなどの工夫で、発表する力がつくと思います。発表の方法、対象など工夫することも課題である。	◇ 次年度から本格的に始まる「国分寺学」についても小学校や地域と連携を図りながら、今後の二中の特色の柱となることを望んでいる。 ◇ 国分寺学については、小学生の児童にも大変有意義な授業になることに期待が持てるので、是非積極的に進めて頂き、その効果を第七小学校へも共有頂けたらともうれしく思います。 ◇ 努力指標と成果指標の数値を見て、商店会が人材不足な今、これからを担う人材である生徒達に地域への関心を持ってもらえるような活動が必要だと考えさせられました。